

こんにゃくと

CDU化成の肥効

群馬県富岡農業改良普及所

吉 田 正 三

全国の約3割を占める

群馬県のこんにゃく栽培面積

こんにゃくは、「蒟蒻」と書く。てんなんしょう科の多年生草本で、地下に大きな球茎がある。高さは約1m。葉は根生し、鳥趾状の複葉に分裂する。夏、てんなんしょうに似た奇形の紫褐色の花を開く。

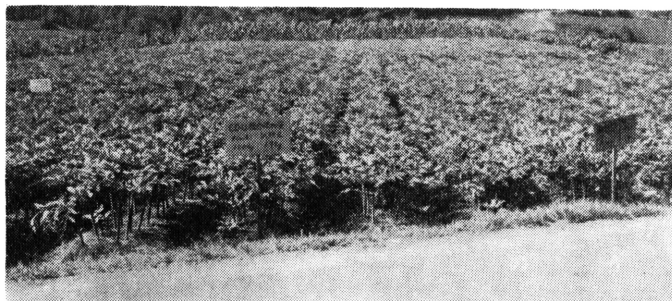
前述の球形が「蒟蒻玉」（こんにゃくだま）で、主要成分はコンニャクマンナンである。原産地はインド、セイロン地方といわれており、わが国へは仏教とともにもたらされたと云われている。

最近におけるこんにゃくの栽培面積は17,600haその収量は131,300トンと推定されている。栽培はほぼ全国にわたっているが、主産県は下記の12県である。

県名	栽培面積	比率	県名	栽培面積	比率
群馬	5,130	29.1	高知	595	3.5
福島	1,920	10.9	静岡	574	3.3
茨城	1,310	7.4	長野	566	3.2
宮城	1,120	6.4	岐阜	537	3.1
埼玉	840	4.8	岡山	333	1.9
広島	774	4.4	その他	3,225	18.2
山梨	676	3.8			

群馬県は全国の約30%を占める“こんにゃく県”であるが、当富岡農業改良普及所管内は県下でも有数のこんにゃく生産地帯で、栽培面積

こんにゃく展示圃の現況 (CDU化成区)



1,540haと県下全栽培面積の約30%を占め、栽培農家戸数は4,340戸、管内農家戸数の約50%がこんにゃくを栽培している訳である。

栽培品種は在来種と支那種が、それぞれ50%の割合で、支那種は主として平坦地で、在来種は山間傾斜地で栽培されている。

なお、管内の主要作目と栽培面積（または飼育頭数）および栽培戸数（または飼育戸数）を示すと次のとおりで、

栽培面積	栽培戸数	飼育頭数	飼育戸数
水稻1,526ha	6,664戸	酪農3,266頭	1,611戸
桑園2,355	6,454		

こんにゃくは、養蚕に次ぐ重要作物となっている。

3 力年の実績が示す

CDU化成の安定性、持続性

さて、こんにゃくに対する施肥は、一般的に耕起時に施し、植付時は無肥料とする。植付け10日後頃に畦上に芽出し肥として施肥、30日後頃に畦溝に元肥として施肥し、その後30日程度に追肥する。

3 年生の状況 (葉柄長70cm)



標準施肥量は10a当りN12~15kg, P10~12kg K13~16kgが普通で、燐酸は全量を元肥に、窒素と加里は元肥として80%を施肥する。なお、堆肥1~6.5トンを植付時に施す。

元来、こんにゃく用の肥料としては、有機質肥料でなければならないという考え方が非常に強く、これまで大豆粕、ナタネ粕に人気が集まっていた。いまでも一部では、有機質肥料や有機配合肥料が重点的に施用されている。

最近では、各種の肥料が使用されてい

るが、そのなかで緩効性肥料が好成績を示している。CDUがこんにゃく用の肥料として、県下に普及されはじめたのは昭和43年頃からである。

ここに、当所管内で過去3カ年にわたり実施してきた、現地展示圃の成績を発表して、ご参考に供する。

これらの表で気がつくことは、昭和43年度はD d入、チオ高度、CDUが標準より高い成績を示し、44年度はASU、有機入、CDUの順で、チオ高度、D d入りは後退している。また45年度ではアヅミン化成、D d入り、こんにゃく複合、チオ高度、CDUの順になっている。

昭和43年度成績

項目 区名	健全芋		かんぶ病程度別内訳						合計		肥大率	収量比	生子	
	コ数	重量	多		中		小		コ数	重量			コ数	重量
			コ数	重量	コ数	重量	コ数	重量						
チオ高度	29.5	8,550	4.5	800	3.5	900	1.0	250	38.5	10,500	7.00	136	487	3,900
M B T高度	29.5	6,650	3.5	800	2	500	4	900	39.0	8,850	5.90	115	455	3,625
C D U	35	7,850	1	300	3.5	750	3	700	42.5	9,700	6.46	125	488	3,875
D d入高度	25.5	7,550	4	900	5.5	1,000	7	1,400	42.0	10,850	7.23	140	447	3,550
標準	28.0	5,700	3.5	500	3.5	850	4.5	650	39.5	7,700	5.13	100	397	3,275
有機入 855	29.5	7,400	4.5	1,200	0.5	150	3	800	37.5	9,550	6.36	123	387	3,150

しかし、CDUは43年度125%、44年度109%、45年度は108%と、他の緩効性肥料の成績がバラツキを示してい

昭和44年度成績

項目 区名	健全芋		病芋		合計		肥大率	100分比	生子	
	コ数	重量	コ数	重量	コ数	重量			コ数	重量
標準	26.5	8,150	8.5	1,500	35.0	9,650	4.3	100	66	700
C D U	30.5	10,000	4.0	650	34.5	10,650	4.7	109	62	610
A S U	31.5	10,300	3.0	940	34.5	11,240	5.0	116	72	620
D d入	32.5	9,900	2.5	350	35.0	10,250	4.5	104	77	790
チオ高度	27.5	8,500	7.5	1,450	35.0	9,950	4.4	102	72	800
有機入	28.5	10,300	6.0	950	35.0	11,450	5.1	118	84	900

るのに対し、比較的安定した成績を示していることで、これはこの肥料の一つの特性である安定性持続性を物語るものであろう。

こんにゃく用肥料も、省力に伴なう追肥を省略

昭和45年度成績

項目 区名	健全芋		病芋		合計		肥大率	100分比	生子	
	コ数	重量	コ数	重量	コ数	重量			コ数	重量
標準	21.0	9,150	6.5	1,300	27.5	10,450	4.78	100	121	1,450
C D U	21.0	9,550	8.0	1,825	29.0	11,375	5.17	108	122	1,250
D d入	23.5	10,650	3.5	1,375	27.0	12,025	5.64	117	120	1,450
チオ高度	22.5	10,300	5.0	990	27.5	11,290	5.24	109	122	1,450
A T C	20.0	9,250	8.5	1,590	28.5	10,840	4.96	103	113	1,300
アヅミン化成	26.0	12,000	3.5	800	29.5	12,800	5.81	121	148	1,800
こんにゃく複合	24.0	11,050	4.0	1,125	28.0	12,175	5.39	112	146	1,700
こんにゃく有機入	18.0	7,800	10.0	1,315	28.0	9,115	4.095	85.6	105	1,200

する傾向が強いので、とりわけ土壌による保持性と、肥効が高いCDU化成に対する関心は今後一層高まるものと考えられる。